

令和7年度(第64回)農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年10月31日（金）と11月1日（土）に、サンシャインシティ（豊島区東池袋）で令和7年度（第64回）農林水産祭「実りのフェスティバル」（主催：農林水産省、公益財団法人日本農林漁業振興会）が開催されました。本フェスティバルにおいて、本県は県産農産物のPR・販売や、新品種を紹介する展示を行いました。

1 「実りのフェスティバル」について

農林水産業と食に対する理解増進、農林水産物の消費拡大等を目的として1962年から毎年開催されています。会場内では、都道府県や農林水産関係団体等の展示ブースで農林水産物や加工品の展示・販売・試飲試食、天皇杯等の受賞者のパネル展示、都道府県技術・経営普及展の展示等が行われ、来場者は2日間で約25,000人となりました（主催者発表）。

2 県産農産物のPR・販売

県産農産物の認知度拡大のため、愛知県農産物需要拡大推進協議会（構成：愛知県、JAあいち経済連）として、首都圏に出荷しているキャベツ、ブロッコリー、ミニトマト、ふき、次郎柿、ぎんなん、大葉、シクラメンを販売しました。【写真1】

3 天皇杯等の受賞者のパネル展示

会場では、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の受賞者のパネル展示が行われました。本県からは、内閣総理大臣賞の多角化経営部門で知多郡阿久比町の有限会社千姓（せんしょう）（出品財：経営（水稻、露地野菜、施設野菜））が受賞し、展示されました。【写真2】

4 都道府県技術・経営普及展における本県の展示

本県農業総合試験場とJAあいち経済連が共同開発した大粒で食味の良いイチゴ新品種「愛経4号」（ブランド名「愛きらり®」）のほか、本県農業総合試験場が開発した新品種として、单為結果性・とげなし性・多収性・漬物加工特性を併せ持つナス「試交17-22」、果皮が黄緑色で甘味が強く果皮ごと食べられるイチジク「愛知イチジク1号」、在来種よりも収穫期が約1か月早いエゴマ「No.7」について紹介しました。【写真3】



【写真1】



【写真2】



【写真3】

農産物を購入した来場者からは、「カラフルなミニトマトは初めて見た」、「祖父江ぎんなんは美味しいので買いに来た」等の声が聞かれ、首都圏において一定の認知度があることも確認できました。今後も、本県産農産物の首都圏での消費と認知度の拡大を目指し、様々なプロモーション活動を展開していきます。